

受入団体名：パナソニック株式会社

募集人数

5名

安全なまちをつくるための自転車利用の調査・提言プロジェクト

＜活動期間：2026年10月上旬～2026年12月中旬 活動日数：6日程度＞

＜活動日or 活動パターン＞

☐週1日程度・定例、☒月1～2回・不定期 ☐その他

＜活動の流れ＞

日時	活動内容
10/13(火) 16:40-18:15	オリエンテーション、事前学習
10/27(火) 16:40-18:15	グループワーク、課題調査の準備
11/10(火) 16:40-18:15	調査の実践
11月	提言の作成
12月	プレゼンテーション、振り返り

＜主な活動場所＞

BKCキャンパス周辺（草津市周辺）
大学構内（最寄駅・バス停など：南草津駅）

＜キャンパスからの交通手段＞
徒歩

＜活動に必要な費用＞
交通費のみ（自己負担）

＜参加の姿勢＞
地域の問題、課題に関心を持ち、フィールドワークや社員、地域住民の方との対話に積極的に取り組める方。主体的に課題を捉え、自らの考えを言語化しようとする意欲のある方を歓迎します。

＜コミュニケーションの手段＞
☒電子メール ☐LINE ☐電話
☐その他（ ）

<活動のテーマと主な内容>

BKC周辺の自転車危険経路を調査・可視化し、行動変容を促す提言をつくる

パナソニックは、自転車製造業を関連企業の一つに持つ企業です。拠点が立地する草津市周辺(BKCキャンパス周辺)は、自転車通学・通勤者が多い一方で、バス停付近や住宅街の裏道において接触リスクや危険走行が課題となっています。本プロジェクトでは、自転車を通う当事者である学生と、パナソニック社員が対等に課題解決に向けたアイデアを持ち寄り、地域の安全課題を一緒に掘り下げます。現場観察やヒアリングを通じた地域課題理解と、課題解決へ向けた協働が求められます。

<活動する現場で学生が求められる背景(理由)>

上述の通り、バス停付近での歩行者やバス利用者との接触リスク、住宅街の裏道での危険走行など、安全面での課題が生じています。学生は在学期間に限られる存在である一方で、その期間中においては、地域で暮らす課題の当事者でもあります。地域課題の解決に向けて、自分たちの利用上の課題を持ち寄るだけでなく、次の学生や地域生活者にとっても安心安全な自転車利用環境を残していく持続可能な解決策の提案が重要です。

<学生が期待できる学び>

- ・自転車通行の実態と安全課題を、フィールドワークを通じて体験的に理解できるようになる。
- ・企業・地域・大学の異なる立場を理解した上で、社会課題を主体的に捉えられるようになる。
- ・危険箇所の調査・分析をもとに、行政や地域に向けた提言を論理的にまとめられるようになる。
- ・活動を通じて得た気づきを自分の言葉で言語化し、他者と共有できるようになる。
- ・ソリューションにとって不可欠な「思考のプロセス」の学びと従来プロセスからのマインドセットを促す

活動紹介①

安全なまちをつくるための自転車利用の調査・提言プロジェクト

自転車を中心とした安全なまちづくり

自転車と地域が共存するためにできることは…？

「自転車による通勤・通学」という身近なテーマを切り口に、日常生活の中にある社会的課題を捉え、受講生が、交通安全の普及啓発活動に取り組みながら、自転車を利用する人々に対して、行動変容を促すコミュニケーション（企画）を考える

活動紹介②

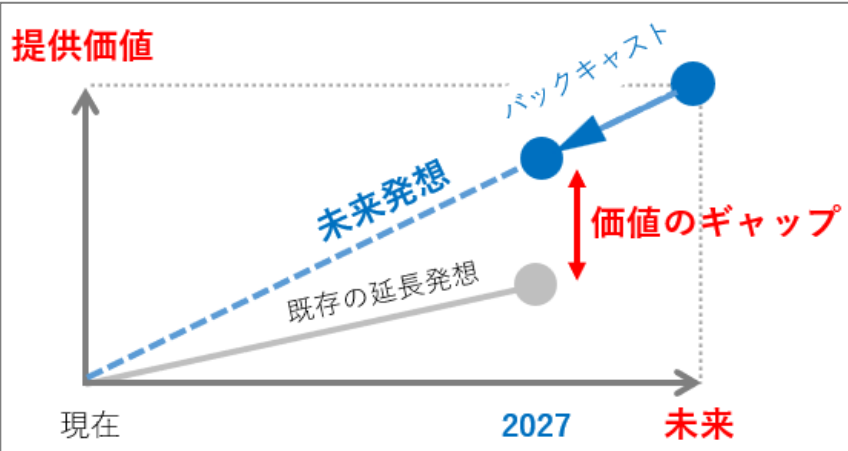
安全なまちをつくるための自転車利用の調査・提言PJ推進のための3要件

現場・現物・実践知



自ら現場に赴き、自らがリアルに課題と対峙する事でフィジカルの重要性を学び取る

視座を上げる



現状からの発想ではなく、ありたい姿（未来）からの発想で課題解決のレベルを底上げする

しくみを知る

安全なまちをつくるための要件

インフラ

教育・啓発

法制度・ルール

車両・安全技術

データ分析

情報提供

まちづくりにおける様々な機関と人の関わり等を知る事で、解決策検討の為の糸口を増やす

	10月	11月	12月
イベント	電動自転車技術とITSについて (技術の仕組と高度道路交通システム)	データから見る自転車事故の実態 (事故とヒューマンエラーの相関関係)	地方創生の共創・取組について (行政と民間企業の推進プロジェクト)
活動	現場・現物実態把握 (調査)	ソリューション案検討 (アイデアソンで短期抽出)	プロトタイプを用いた 仮設検討 (PoC)